



ネットで秋厚労ニュース
http://www.shukouro.net/

ID shukouro
パスワード 0188643341

メール info@shukouro.net

NO1850号

2018年6月25日

秋田県厚生連労働組合

秋田市山王5-4-2

TEL 018(864)3341

FAX 018(864)3349

秋厚労ニュース

常勤医師迎え

精神医療を考える集い

鹿角

住民運動が実り、精神科の常勤医師が赴任した鹿角。「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」は、4月以降医師たちと懇談を重ね、来る7月21日に「これからの鹿角の精神医療を考えるつどい」を開催することになりました。住民・医師・病院・施設・行政が一堂に会し、みんなで地域医療をつくっていくスタイルを目指します。

これからの鹿角の精神医療を考えるつどい

2018年(平成30年)

7月21日(土)

13:30~16:00

鹿角市・文化の杜交流館「コモッセ」研修室

<報告予定>

精神科の先生(2人)、病院、鹿角市、同市社協、小坂町社協
鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会

<報告後> 誰でも発言できるようなフラットな懇談会

住民・医師・行政の話し合いでつくる地域医療目指し

常勤医師が赴任した4月以降、かづの厚生病院の精神科外来では、全平日診療が行われています。診療ブースが1つしかないこともあって、2人の医師が交代で午前・午後を担当。12年間診ることができなかった「新患の診察」も再開し、「精神科デイケア」復活は7月下旬を予定しています。

「市民町民の会」は、この間、院長・事務長らから直接「病院の方針」を聴くとともに

に、当該の医師とも数回懇談。その取り組みの中で浮上したのが「これからの鹿角の精神医療を考えるつどい」で、来る7月21日に開催する運びとなりました。

課題の共有が目標

「つどい」の最大の目的

「空白の12年間」埋める役割も

精神科の常勤医師が不在となった「空白の12年間」は、鹿角地域に大きな影響を及ぼしています。障がい者施設などでは、毎週金曜日は「この土日を無事過ごせるか」という不安が襲うとのこと。施設の担当者や家族などが「精神疾患に関する知識」を身に付けたくても、日常的にその機会があるわけではありません。

これらの反動で、赴任した常勤医師に対して過度に期待する事態もあり得ます。今回の「つどい」には、「空白の12年間」を少しづつ埋める役割もありそうです。

医療は住民のもの

精神科に限らず、もともと

定です。

今回は、初回であることから、精神医療に関して、それぞれの人や団体が感じている「鹿角の課題」をお互いに共有するのが目標。主催する「市民町民の会」は、解決に向けた方向性が少しでも出れば「大成功」だと考えています。

と医療は「住民のもの」です。権力者の都合で医療が捻じ曲げられ、住民が振り回されるような現状は改善しなくてはなりません。また、「医療の空白」は地域の衰退に直結します。だからこそ日本中で多くの住民が立ち上がり、医療に関する住民運動があちこちで起きています。

「市民町民の会」は、将来的に、できれば「地域の医療の事は、住民・医師(病院)・施設・社協・行政などが話し合っ決めていくスタイル」が確立されれば良いと考えており、今回の「つどい」がその第一歩となることを期待しています。